



シャロンの花

同窓会報

第 17 号

平成25年度総会・懇親会のお知らせ

日 時 **5月25日**(土) 総 会 午後2時30分～
懇 親 会 午後3時30分～

場 所 京成ホテルミラマーレ (京成千葉駅前)
千葉市中央区本千葉町15-1 ☎ : 043-222-2111

会 費 **7,000円** (当日受付にてお支払いください)

懇親会だけの出席も大歓迎です。恩師の先生方も多数ご出席いただいております。本年は昭和47年卒高校第24回生の皆さんが幹事団を組んで取り組みますが、卒業生はどなたでも出席できますので、お誘い合わせの上ご来場下さい。お問合せ・お申込みは、5月10日までに同窓会事務局 (☎ : 043-251-9221) へ。

「シャロンの花」は校歌の歌い出しです。

昭和26年、創立10周年記念に沢田繁二教頭先生が作詞され、制定されました。この校歌は、他校にはない美しい響きを持つ詩で綴られています。同窓会報を創刊するにあたり、懐かしい言葉「シャロンの花」をタイトルにいたしました。

シャロンは、イスラエル西部の地名です。その地に咲く白い可憐なシャロンの花は、旧約聖書で「純潔」の象徴とされています。

平成25年3月7日発行

(表紙タイトル・イラストデザイン 昭和35年卒 北川広志)

発行者	千葉県立千葉東高等学校 同窓会会長 井戸川 浩	編集部	千葉県立千葉東高等学校同窓会事務局内 〒263-0021 千葉市稲毛区轟町1-18-52 TEL 043-251-9221 FAX 043-255-6575
-----	----------------------------	-----	--

印刷所 豊宮坂印刷 TEL 043-251-4537 FAX 043-251-4535



同窓会報「シャロンの花」 第17号発刊ご挨拶

千葉県立千葉東高等学校同窓会
会長 井戸川 浩

同窓会会員の皆様並びに恩師の先生方お元気でお過ごしでしょうか？

また、本年卒業された皆さんを新たな会員としてお迎えするにあたり心から歓迎の意を表したいと思えます。会報「シャロンの花」第17号をお届けいたします。母校は、創立70周年を越え次の80周年に向かって歩み

はじめました。

同窓会報「シャロンの花」が脆弱な財政基盤の中でもコツコツ発行できたのも、母校愛あふれる同窓生の皆様からの継続的な寄付のお陰と心から感謝申し上げます。

また、日々の活動を支えて下さった校長先生をはじめ先生方のご尽力にも厚くお礼申し上げます。

どうか、今後も発展する母校の後援会として、また世界中で活躍する同窓生の心のふるさととして、同窓会活動を積極的にご支援いただきますとともに、会報「シャロンの花」をご愛読下さい。



ご挨拶

同窓会名誉会長（学校長）
渡邊 茂通
（高校第24回S47卒）

同窓会会員の皆様におかれましては、日頃より母校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただいておりますことに、こころよりお礼を申し上げます。

本校は、平成24年2月にユネスコスクールに加盟申請し、8月に承認されました。ユネスコスクールは、世界180カ国で約9,000校が加盟し、日本国内では、2012年9月現在489校の幼稚園・小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学が参加しています。ユネスコスクールの活動目的は、世界中の学校との交流を通じ、情操や体験を分かち合うこと、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や、手法の開発、発展を目指す

ことにあります。

本校では、活動の一環として、千葉大学主催のユニバーサルフェスタや千葉大学留学生との交流会をすでに実施しています。

また、短期国際交流においても従来からの米国ミシガン州クラークストン高校との交流だけでなく、オーストラリアの学校との交流も新たに企画しているところです。これらの企画が推進できるのも同窓会の温かいご支援のおかげとっております。

平成25年度は、更に1学級増えて、26学級規模となります。最終的には各年次9学級の27学級の予定です。県教委のこうした措置は本校を希望する生徒の増加に伴うものであり、入学を希望される受験生が多いということは、本校の教育を承認、応援して下さる意志の反映と受け止めて喜んでおります。

同窓会の皆様におかれましては、今後とも母校の隆盛のためにご支援くださるようお願い申し上げます。

貸ビル業

JR蘇我駅西口前

新月

千葉市中央区今井2-4-7

☎ 043-261-2850

大森啓護（昭和31年卒・野球部）

ギャレックスチバ株式会社

代表取締役 澤田繁信（昭46年卒）

千葉市中央区今井3-1-9

[TEL] 043-261-4528

[FAX] 043-265-5446

[mail] info@galaxchiba.jp



オリジナルマーキングは当社へ



平成24年度 千葉県立千葉東高等学校同窓会総会報告

平成24年度同窓会総会・懇親会が平成24年5月19日(土)千葉市の三井ガーデンホテル千葉で開催されました。

本年の年度幹事である高校第23回生昭和46年卒の市川重則氏を幹事長とする各クラスの皆さんがたが昨年の総会(H23. 5. 21)で引き継ぎ式をしたのち多くの打ち合わせを重ね、同年次の団結と懇親会の盛り上げを旨に周到に準備したものでした。

ご尽力に対し心からの謝意を表するものであります。

黙禱：開会に先立ち、お亡くなりになった先生方や卒業生、同窓会副会長高橋一郎氏らのご冥福を祈り、黙禱を捧げた。

1. 会長挨拶要旨

本日は多数ご参加有難うございます。卒業生は衛生看護科や通信制も含め各界でそれぞれ活躍されていることは喜ばしい。在校生は陸上部や山岳部の躍進が目覚ましいが、進学校としての先生方の献身的な指導もあって進学実績もすばらしい。同窓会は学校を縁とする絆集団として、人々の絆をつなげる役割を果たしておりこれからも努力していく。

2. 名誉会長挨拶要旨 (渡邊校長)

昨年4月より校長を務めていて、昭和47年の本校卒業生でもある。昨年の70周年記念事業では、卒業生の皆様からの多大なご支援を頂き県下に誇る美しい緞帳・放送設備・大型スクリーンを設置していただき感謝のほかはない。本校では様々な活動を通して人間力を高める教育

をしているので、今後ともご支援お願いしたい。

3. 来賓紹介および挨拶要旨 (須田先生)

(小川常任幹事より来賓紹介があり、代表として第11代校長だった須田義男先生が挨拶。)

私は創立40周年当時の校長。郷里と離れていればいるほど母校は心に残っているもの。世界の各地で活躍している卒業生も同じだとおもう。また、総会に行くといつも新しい出会いがあることはとてもうれしい。皆さんも同窓会に新たな出会いや生きがいを見つけてほしい。今後の発展をお祈りする。

4. 議事 (議長 小塚書記)

- (1) 平成23年度事業報告 (井戸川会長)
- (2) 平成23年度同窓会費決算書 (石橋副会長)
- (3) 監査報告 (澤田監査)

石橋副会長が一般会計の現状を訴え、維持基金の納入や総会への多数参加を呼び掛けた。

- (4) 役員の変更 (井戸川会長)

同窓会役員を募集しているが希望者がなく、人の交替が進まず役員が高齢化していることを伝えた。

新任の鈴木英一氏と石橋邦彦氏を紹介した。

- (5) 平成24年度事業計画 (案) (井戸川会長)
- (6) 平成24年度事業予算 (案) (井戸川会長)

創立70周年記念事業の追加事業として職員室への空調設備を設置することに、賛同を得た。

(市原俊介 高校第45回H5卒)



平成23年度千葉東高等学校
同窓会決算書

総収入 ¥ 2,462,517
総支出 ¥ 3,805,257
残 額 ¥△1,342,740 … 次年度へ繰越

収入の部 (単位:円)

項 目	収入済額
1. 繰 越 金	△ 830,050
2. 会 費	975,000
3. 入 会 金	162,500
4. 同窓会活動維持基金	745,000
5. 総 会 会 費	1,246,000
6. 広 告 代	70,000
7. 雑 収 入	94,067
計	2,462,517

支出の部 (単位:円)

項 目	支出済額
1. 運 営 費	2,199,523
(1) 会 議 費	123,017
(2) 総 会 費	1,206,475
(3) 通 信 費	203,050
(4) 慶 弔 費	428,850
(5) 旅 費	0
(6) 雑 費	238,131
2. 事 業 費	605,734
(1) 同窓会報発行費	170,734
(2) 母校部活動支援費	335,000
(3) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	0
計	3,805,257

基金繰入金会計

平成24年 3 月末現在 ¥4,896,093

(単位:円)

項 目	収 入	支 出
前年度繰越金	4,893,996	0
利 息	2,097	0
計	4,896,093	0

創立70周年記念事業基金

平成24年 3 月末現在 ¥14,874

(単位:円)

総収入	9,213,589	H14.4.1 ~ H23.9.30迄
総支出	9,198,715	体育館緞帳の新調等
残 額	14,874	80周年基金への繰越

会計監査報告

平成23年度同窓会会計の出納簿、証拠書類及び預金通帳等を詳細に検査した結果、処理が正確であり支出も適正であることを認めたので、ここに報告致します。

平成24年 5 月12日

千葉県立千葉東高等学校同窓会
会計監査 時田 拡 央 印
澤田 繁 信 印

平成24年度千葉東高等学校
同窓会費予算書

収入の部 (単位:円)

項 目	予 算 額
1. 繰 越 金	△1,342,740
2. 会 費	975,000
3. 入 会 金	162,500
4. 同窓会活動維持基金	1,500,000
5. 総 会 会 費	1,300,000
6. 広 告 代	70,000
7. 雑 収 入	100,000
8. 基金より繰入	2,000,000
計	4,764,760

支出の部

(単位:円)

項 目	予 算 額
1. 運 営 費	1,710,000
(1) 会 議 費	200,000
(2) 総 会 費	1,000,000
(3) 通 信 費	200,000
(4) 慶 弔 費	200,000
(5) 旅 費	10,000
(6) 雑 費	100,000
2. 事 業 費	3,050,000
(1) 同窓会報発行費	2,500,000
(2) 母校部活動支援費	350,000
(3) 母校教用具支援費	100,000
(4) 海外派遣支援費	100,000
3. 予 備 費	4,760
計	4,764,760

基金繰入金会計予算

平成25年 3 月末現在 ¥2,899,093

(単位:円)

項 目	予 算
前年度繰越金	4,896,093
利 息	3,000
基金予算に繰入	2,000,000
計	2,899,093

創立80周年記念事業基金

平成25年 3 月末現在 ¥14,874

(単位:円)

項 目	予 算
前年度繰越金	14,874
今年度入金分	600,000
計	614,874

同窓会ホームページ

同窓会のホームページは下記の通りです。

URL <http://www.dosokai.ne.jp/chibahigashi/>

なお、これとは別に母校のホームページもご覧下さい。

URL <http://cms1.chiba-c.ed.jp/chibahigashi-h/>

同窓会活動維持基金

同窓会活動は、母校の状況と卒業生の動向をお知らせする会報“シャロンの花”の発行と、部活や教育活動で母校発展のために活躍する生徒や、それを指導する先生方を後押しする母校教育活動への金銭的支援活動です。

県下でも注目を浴びている母校の教育活動への支援に、更なるご後援をお願いいたします。

創立100周年祈念80周年記念事業基金

ご厚志をいただける場合は、同封の郵便振替用紙にて1口2千円、何口でも結構ですので、ご送金下さいますようお願い申し上げます。

郵便振替口座

00160-8-148932

千葉東高等学校同窓会

特別インタビュー

学校長に聞く

校訓
「明朗・真剣・錬磨」
制定

(平成24.12.18. 於: 母校校長室 聞き手: 井戸川同窓会長)

母校は創立70周年を越え、新たな歴史を刻み始めた。同時にこれまでの歴史を振り返るなかで学校訓の必要性が認識され、種々検討の結果、このほど「校訓」として制定されました。

その経緯等について渡邊校長先生(以下敬称略)にお伺いしました。

—— お忙しいところお時間をいただきありがとうございます。早速ですが、このたび校訓を制定なさったとお聞きし、卒業生にも関心のあることだと思い、経緯などをお伺いしたいと思います。

70周年記念事業 同窓会の支援に感謝

渡邊: 同窓会をはじめ、同窓生の皆さんには平素大変お世話になりましてありがとうございます。また、創立70周年記念事業につきましては、格別のご支援をいただき感謝に堪えません。

—— 10年という長期間にわたる多くの卒業生の思いがこもった記念事業基金ですから有効に使っていただければ、幸いだと思えます。

渡邊: お陰さまで生徒の学校生活が一段と明るい希望に満ちたものになってきていると実感しています。

—— それは、なによりですね。さて、そもそもどういう経緯で校訓制定にいたったのでしょうか。生徒の方から何か希望とかがあったのでしょうか。

渡邊: いえ、この話は、生徒の方から起こったものではなく、平成23年に70周年記念事業の準備会の中で、本校の「将来像検討委員会」を担当していた先生方の中から、本校の生徒の将来のために教育方針を見直すことが必要かどうかという議論が起こったのが発端です。

—— 生徒のためにどうあるべきかが原点だと……。

母校将来像検討委員会の立ち上げ

渡邊: はい、時代とともに学校教育の在り方が変遷していくのは当然としても、やはりそこには本校は本校としての特色ある教育というものがあるべきで、そうした新しい視点から目標となる生徒の姿を明確にするために校訓のようなものを定めたいという建設的な議論

が起こり、まずは、これまでの校史を紐解きながら、5回ほどの「将来像検討委員会」、そして中間報告、運営委員会の審議、職員会議での承認を経て決定しました。

—— 校史からどんなことが分かったのでしょうか。

渡邊: はい、実は校史を見直していくなかで、教育方針の源となる校訓がかつては存在していたということに行きあたりました。これは、大発見でした。

—— えっ、校訓があったんですか。私が在学した昭和30年の初めのころはそういうものは見聞きしませんでしたか。

創立時の校訓発見!

渡邊: はい、そうなんです。実は、この校訓は戦前の本校創立時からあったということなんです。

—— へえ～。創立からですか。

渡邊: はい、本校が昭和16年の4月に千葉市立千葉高等女学校として千葉市港町で産声を上げたのは、ご存じのとおりですが、その時の初代校長が県の視学だった滝熊之助先生です。

本校の30年誌を見ると、この滝先生が平素から生徒に対して自らのモットーを訓じていたとの旧職員の話が掲載されています。

明朗・真剣・錬磨

—— それはどういうものですか。

渡邊: 「明朗・真剣・錬磨」です。当時の雰囲気から言えば、女子教育に対する特別な思いがあったと思うのですが、そうした新しい視点から目標となる生徒の姿を明確にするために定めたと考えられます。

30年誌によれば、『「明朗」であるということは、見かけだけの明るさでなく、責任をちゃんと果たし、心の安定感を持つとか、他のために尽くした喜びを感じるとか、苦しい時にも心に明るさをもってことに当たっていくとか、対人関係を明るくするなど具体的に指導され、校内が校訓通りの雰囲気に満ちており、校外でも「市立高女の生徒は街を歩いている姿が良く上品で、すぐ分かります」といわれる』とあります。

—— 校訓は生徒が在学中の生活や学習の指針となるものだけに、慎重に選ばれた言葉であるべきだと思いますが、この言葉は卒業後の人としての生き方の指針にも十分通じる言葉だと思います。つまり、戦前に制定されたとは思えないほど現代性というか普遍性を持っていますね。

古きを温めた70年ぶりの復活

渡邊: そうですね。実に70年ぶりに戦前の言葉が今に蘇っ

たといいますか、検討委員会の先生方も、同じように指針を新たに作るよりもこの言葉の普遍性、現代性に着目して復活させようという結論に達したようです。この言葉は、人のあるべき姿を象徴しているように思います。つまり、いつでも明るく振る舞い、誰に対しても真面目に接し、そしてスキルアップを怠らないというこの姿勢は、時を越えた現代でも必要な姿勢であり、時代を超越して人に求められている基本姿勢だと思えます。本校では、生徒たちにこの姿勢が身につくようにしっかりと教育していきたいと職員会議で提案され承認されたということです。

——70年ぶりですか。まさに温故知新ですね。先生方の熱意が「古きを温める」ということに通じました。日本には「言霊」という言葉がありますが、70年ぶりに蘇ったこの言葉は少しも陳腐化しておらず、むしろ瑞々しきさへ漂わせていますね。

渡邊：ありがとうございます。同時に本校が平成15年に進学指導重点校に指定された時に、学習指導の指針として「教養の復興」を掲げましたが、これはこれでスローガンとして残すことにもいたしました。

——それはいいですね。進学も大事だが本来学問は進学のためだけじゃない、人としての教養の付与こそが高校教育の原点なんだという普遍性・メッセージ性のある指針でしたから残された方がいいと思います。ところで、今後は、この校訓の浸透が大事だと思いま

すが、具体的にはどのようにされますか。

多面的に周知

渡邊：そうですね、具体的な取り組みはこれからとなりますが、大きく分けて在校生とその保護者向けの取り組みと、これから入学しようと志す中学校の生徒さんや保護者向けとありますね。

在校生関係は、校訓の具現化のために教育活動の整合性に配慮した取り組みが必要でしょう。保護者に向けては、PTA会報、HP等に掲載し意図や趣旨を説明したりすることが必要だと思います。

中学校や受験生の父兄向けの各種パンフレット、学校要覧とかスクールガイドなどですが、そういった刊行物についてもその趣旨や取り組みを周知してまいりたいと思います。

——分かりました。本年から同窓会は校訓第二世代と申しますか、校訓復活制定第一回生を会員として迎えるわけですから、一貫性の確保という側面から、また既卒の同窓生には本校の現在の状況を報告するという観点から同窓会報にも校訓ならびにその解説の掲載を継続してまいりましょう。

渡邊：それはありがたいことです。ぜひお願いします。

——本日はお忙しいところ貴重な時間を割いていただきありがとうございます。

校訓額の寄贈

同窓会は、校訓制定を記念して、母校玄関に飾る「校訓額一基」を寄贈致しました。

尚、揮毫は本校卒業生で母校の書道担任でもある高橋敏行先生です。



表装を終えて納品されたばかりの校訓と揮毫された高橋先生（高校第28回S51年卒 母校書道担任）

校訓制定によせて

（平成二十四年度後期生徒会長 古山 泰輔）

我が校には、かつて『明朗・真剣・錬磨』という校訓があったそうです。私の親さえも生まれていない程、昔からこのような精神が先輩方によって代々育まれてきた事は後輩としてとても誇らしく思います。

今回、この校訓の再制定という東高にとっての大きな出来事に生徒会長として立ち会える事を非常に光栄に思うと共に、いつも自分を支えてくれる仲間、先生方、家族に感謝したいと思います。

この三つの言葉は全て現代の若者が教訓にすべき言葉だと思います。

明朗でありながら、一つ一つの事に真剣に取り組むために生活の中で、きちんとメリハリをつけて、仲間とお互いの良さを尊重し合いながら日々錬磨し合う。

こうした姿勢がこれから社会に出ていく高校生に求められているのではないのでしょうか。

校訓の思い出

初代同窓会長 永江 栄 (高女第2回S21卒)

戦時色も濃くなった昭和17年4月に、市立千葉高女に第2回生として入学した私たちは、木造平屋の仮校舎で二教室をぶち抜いた広間で入学式をしていただきました。

その時、正面の教壇の上に、校訓「明朗・眞剣・錬磨」と書かれた額がかかっているのを見て、ああ、自分たちも女学生になったんだなあと自覚したものです。

毎朝の朝礼時には、八教室ある教室ごとに半紙大の額に入れて教壇の黒板の上に掲げてある校訓を見ながら、全員で唱和しました。

この校訓は、国学に造詣が深い初代校長の瀧 熊之助先生が練りに練って考えられたそうです。それを書道の初代安塚旭洞先生が、若々しいカチッとした字で

お書きになり、各教室に掲げられたものです。

安塚先生は、授業の時に全員にこの校訓をお手本として書いてくださり、何枚書いても重ねると全部一つになるよと仰って目の前で重ねて見せて下さいましたが、本当に一枚に書かれたようになったので、先生はすごいなと一層尊敬の念を持ちました。

こうして、校訓をお手本にして書いたせいか、知らず知らず心の中に染み込んでいき、精神的にはかけがえのないしっかりしたものを教えられたのだと思えますし、それだからこそ今日まで戦後の荒波を生き抜いてこられたのだと、改めて先生方の教えを深く深く感謝申し上げます。

在校生 バンザイ!!

ことしも在校生は頑張っています。そのうちの一部をご紹介します。

陸上部

県知事表彰

清水友紀(2年次生)さんが全日本ユース選手権女子400mハードルに優勝し、去る平成25年1月24日千葉県議会議場にて森田知事から“平成24年度児童・生徒表彰”を受けました。

【清水さんの戦績】

関東大会	女子400mH	優勝
インターハイ	女子400mH	第3位
国体	女子400m	第7位
全日本ユース選手権	女子400mH	優勝

JRC同好会・マンドリン楽部・ジャグリング同好会

(千葉日報・千葉テレビ取材)

平成24年12月21日 母校隣接の轟保育所(園児183人)のクリスマス会が催され、母校JRC同好会など生徒31人によって、マンドリンの演奏に合わせて一緒に歌ったり、ジャグリングを楽しんだりした。

母校は、同保育所をはじめとする周辺地域の市指定の避難場所となっていることもあり、夏の七夕会などにも

参加し、園児と高校生の間関係の形成と地域貢献活動を通じて高校生の成長を促そうと行われており、今年で2回目。この様子は12月23日の千葉日報紙でも大きく報じられたほか、千葉テレビでも夕方のニュース番組で取り上げられるなど、母校生徒の活躍ぶりが広く県下に知らされました。

書道 第21回国際高校生選抜書展入選

3年次生 宮崎亜沙美さん

第20回 国際高校生選抜書展について昨年に続き母校生徒1名(昨年は4名)が入選を果たしました。

この書展は国内外から19,000点弱の応募があり、週2時間の授業時間の中で仕上げた作品が選ばれたことは快挙だと言えます。

入選した宮崎さんからコメントを頂きました。

『半切(縦138cm×横35cm)の作品は、一つを仕上げるの

に時間がかかり、集中力を持たせるのに苦労しましたが、少し失敗したと思っても、全体のバランスを見て修正するように心がけました。また、この題材の力強い書体に魅かれて選んだので、筆の動かし方は工夫しました。墨は少し濃いめにして、にじみやかすれも生かせるような作品を目指しました。』

みんなで聴こう音楽会

母校音楽三部定期演奏会 参観記

(音楽部・吹奏楽部・マンドリン部)

2012年の春も音楽部、吹奏楽部、マンドリン部の定期演奏会があった。実は、2011年は震災の影響で、音楽部の定演が中止となり、吹奏楽部とマンドリン部も曲数縮小を余儀なくされた沈痛な過去を持つ。

2012年は例年の規模を取り戻せたものの、やはり微妙に震災が影を落としていたような空気感があった。

音楽部は、3月29日第29回となった定演で、前年に中止されて出演できなかった卒業生が、在校生と合同出演するステージが設けられ、震災をテーマとした曲など心を込めて歌っていた。

また9年という長きにわたってご指導いただいた顧問の青木先生が東高を去られるにあたり、演奏会の最後は多数の音楽部卒業生も加わって感動的な大合唱となった。

吹奏楽部は、5月4日第40回となったが、前回をもって指導講師の交代があり、新任の指導講師による初めての定演となった。指導方針が変わったとすれば、戸惑いは少なくなかっただろう。その中で部員たちは、震災を機に芽生えた、制約のない自由な演奏活動ができることへの感謝を胸に演奏会に臨んだという。

マンドリン部は、5月20日第50回の演奏会となったが、例年よりも部員数が多く全ての曲を全員で演奏することはできなかったという。互いに目配せして音を合わせる輪が欠ける無念はいかばかりか。それでも一つ一つの音に、全員の思いはしっかり込められていたように感じた。これら定演はいずれも、長い歴史を重ねてきた。だがそれは、毎年入れ替わる部員の人生における唯一無二の多感な時間を切り取った集まり。社会情勢など環境も毎年変わる。その結果、毎年異なるものができ、それ卒業生

をはじめとする観客は見て聴いてくれている。是非、みなさんも若い力あふれる定期演奏会に足を運んでご鑑賞されることをお勧めします。

(同窓会書記 市原 俊介 高校第45回H5卒)

【編集部注】

平成25年度の定期演奏会は下記のとおり予定されています。入場は無料です。奮ってご観覧下さい。

- 音楽部 …… 平成25年3月30日(上) 13:00 開演
JR千葉駅前 京葉銀行文化プラザ 音楽ホール
- 吹奏楽部 …… 平成25年5月5日(日) 14:30 開演
千葉市民会館 大ホール
- マンドリン部 …… 平成25年5月19日(日) 16:00 開演
千葉市民会館 大ホール

関 法律事務所

- ・法律相談 ・遺産相続
- ・不動産 ・顧問弁護士
- その他



弁護士・千葉県議会議員 関 政幸 (1998年卒)

〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野3-7-2-605
TEL 043-291-5525 FAX 043-291-5526

あなたが住みたい町のアパート・マンション

お部屋探しを応援します!!

ISO9001認証 千葉県知事免許(10)5206号

株式会社 高品ハウジング

同窓会副会長・県議会議員 山中 操

千葉市若葉区高品町1585-1 ☎ 043-232-0006

千歳テレビ 毎週日曜日 22:00~22:30
& 当社提供『村口史子のグッドゴルフ』にて CM放送中

bayfm78

携帯でQRコードを読み取ってください

JR京葉線 蘇我駅東口前

アパートマンション分譲住宅

おかげさまで創業47年

不動産の売買・仲介
賃貸借・総合管理の
ことならおまかせ!



堤 清司 (昭和53年卒)

三幸商事株式会社

サンコーサンコー 〒260-0842
TEL.043-263-3535 千葉市中央区南町2-17-11
FAX.043(265)4488 http://www.sanko-shouji.co.jp

東雲祭参観記

(来場者 4,500名)

東志は燃えている

9月1日(土)と2日(日)、東雲祭が開催された。

今年のテーマは「東志を燃やせ」。悪天候の影響からか昨年より若干減少したが、それでも来場者約4,500名の大賑わい。やはり東雲祭ひいては東高の代名詞となった3年生のミュージカルの人気の影響だろうか。

今年は混雑対策として、3年生団体に対して初めて整理券が導入された。各上演で30枚、予め昇降口付近でもらうと優先入場できるのだが、人気のせいか整理券が早くなくなり、上演直前の廊下の混雑は変わらず。再検討が必要なようだ。

今年の3年生は8クラス中5クラスが「アラジン」「美女と野獣」などのディズニーもの。ノウハウが年々蓄積され伝えられたのだろうか、中身は年々レベルアップしており、プロまがいの歌唱や踊りを披露する生徒がいる。最も早くて4月に演目を決めて準備を始め、夏休みをほぼ完全に返上して取り組むそう。何らかの都合でストーリーを一部変更するクラスもあれば、照明の当て方が不十分で役者が見えにくいクラスもあったが、熱心に取り組む姿勢は変わっていない。

研究や芸術の展示も見逃せない。写真部の様々な題材を扱った写真、書道部の息をのむ臨書、美術部の全国高校総合文化祭出品作や学展高校部人賞作をはじめとした立体感・臨場感溢れる絵画作品の数々。どこからこの構図や色彩感覚が思い浮かぶのかと驚かされる。化学部では警察の鑑識で用いるルミノール反応の実演があった。そしてその場に展示された、今時のパソコンやネット、デジカメなど豊富な環境を駆使しての、非常に完成

度の高い研究発表資料の数々に目を奪われる。

東雲祭大賞は3年6組の「アラジン」となった。惜しいのは、東雲祭大賞が演目の人気投票と化しつつあることか。3年生の上演の殆どが超満員で思うように入りづらい、期間中ほぼ全て上演で埋め尽くして他団体を見られない、など原因はあるだろう。ここは今一度、人気傾向よりも完成度や独自性で勝負する骨太の団体が出るのを期待したいところ。

私は今の生徒たちをつくづく羨ましいと思った。20年前の私の時と異なり、「いつかはミュージカル」と1年生の時に将来像が見え、3年生に憧れを抱き、3年生になったらネットなどの恵まれた環境も駆使し、若い力でまっしぐらにその道に突き進み脚光を浴びる。そしてミュージカルの舞台では、互いの思わぬ個性を見つけ合って存分に発揮し、主役にならなくとも歌や踊りに加われば誰でもクラスの力となり、志を一つにした実感がわくのだろう。

そんな今の東高生が紡ぎ出す東雲祭。

時代が変わっても「東志」、東高で一つになる志は確実に燃えている。その場面を、自らの思い出と響き合わせて見てみるのはいかがだろうか。

(同窓会書記 市原 俊介 高校第45回H5卒)

編集部：注 今年度の東雲祭は、平成25年8月31日(土)、9月1日(日)開催予定です。



東雲祭 閉会式 (中央は渡邊校長)



東雲大賞 「アラジン」 3年6組集合

国際交流米国派遣報告

引率教諭 石井 豪

平成23年3月18日(日)～3月29日(木)の日程でアメリカミシガン州クラークストン高校に男子2名、女子8名合計10名の生徒を理科の藤田 修教諭と共に引率しました。

最初の8日間はクラークストンのホストファミリー宅にホームステイをし、残りの3日間はニューヨークに滞在し、市内見学をするというもので、昨年とは逆旅程でした。

デトロイトまでのフライトは12時間あまり。その長い空の旅を生徒たちは英語の本を読んだり、プレゼンテーションの復習をしたり、思い思いに過ごしておりました。日付変更線を越えたため、デトロイト到着は私たちが出発した18日午後の同時刻です。到着ロビーにはクラークストン高校のフェイ先生とホストファミリーが出迎えてくれ、早速英語が飛び交いました。

翌日の1限から「日本文化紹介」のプレゼンテーションが始まりました。特に「アニメ」発表の中の「ドラえもん」は、アメリカの高校生や中学生がよく知っているせいかとても盛り上がりました。日本のファストフード店での0円スマイル（実際にレシートにスマイル0円と記載がある）の紹介もアメリカの生徒・職員ともに驚いていました。

各家庭には地下室があり、そこを会場にポトラック形式（各家庭から料理を持ち寄り食事をする）でパーティ（歓迎会・送別会）を楽しみました。地下室は広く、ビリヤー

ドをやったり、ダンスをしたり、みんなで写真を撮ったり、大はしゃぎでした。きっと生徒たちの一番の思い出になったに違いありません。

ニューヨークでは日本人のガイド付きで自由の女神、エリス島、メトロポリタンミュージアムなどを見学しました。特に国連ビルの案内は現地職員である日本人スタッフが担当してくださり、生徒たちは将来この職員のように海外で活躍したいという思いを強くしたようです。

千葉東高校では生徒の多くがこの国際交流米国派遣プログラムに関心を持ち、入学してきます。それはこの交流事業を直接担当している職員の尽力と、さらには保護者の方々や、同窓会のサポートがあればこそのことと考えております。24年度は人数を増やし、さらに大きな成果を求めて活動する予定です。これまで以上にご理解ご協力をお願いできれば幸いです。



クラークストン高校の生徒・職員から送られたお揃いのTシャツを着て（送別会が行われた地下室で）

卒業生バンザイ

卒業後、色々な場面で活躍している卒業生……。そのすべてをお知らせすることは難しいことですが、同窓会が把握した旬の動向をご紹介します。

卒業生初の国会議員誕生！

去る2012年12月16日投票の第46回衆議院議員総選挙において、本校卒業生の田沼 隆志氏が初当選されました。千葉市議会議員からの飛躍です。

ここからお祝いを申し上げます。

では、卒業生の選良はいったいどのくらいおられるのでしょうか。いい機会ですので調べてみました。

とりあえず千葉県を中心に調べましたところ、田沼氏をいれて5人もの選良が現在ご活躍中という事が分かりました。そこで、これらの方々にご協力を得てひとこと

母校・生徒・同窓会へコメントを頂きました。（卒年順）

石橋 清孝氏（高校第19回S42卒）千葉県議会議員

母校は、現在の私を育てていただいた場と考えており、恩師や同窓生に感謝申し上げます。

創立70周年を越え、学校設備の充実はもちろん、在校生の皆さんが学業、スポーツにご活躍されている姿を心強く感じております。

山中 操氏（高校第21回S44卒）千葉県議会議員

昭和44年卒業の山中操です。高校時代はラグビー部に所属です。現在は、同窓会副会長を拝命しております。特に、東高校は千葉県屈指の進学校でもあり、スポーツにおいても国体で活躍した生徒もおります。

母校は生徒・教師・地域の方々へのアンケートの結果、大変素晴らしいとの評価でした。卒業生として、母校の為により一層頑張りたいと思います。

田中 信行氏 (高校第22回S45卒) 千葉県議会議員

千葉東での高校生活はその後、友人や人生の出会いの中で、一つのころよい絆のようなつながりを多く感じることが出来ました。今思えば、迷いや不安の中でも楽しい高校生活でした。わずか3年間でしたが人生の中の大切な一瞬でした。感謝です。

近藤千鶴子氏 (高衛第7回S50卒) 千葉市議会議員

同窓生の皆さん、こんにちは！

東高には懐かしさと甘酸っぱい思い出が沢山あります。大好きだった昇降口から校門に向かう真っすぐな道～今でも情景が思い出されます。

天職と信じて疑わなかった看護教育を含め、21年間の医療現場での仕事の起点は東高の学び舎でした。先輩に憧れて3年間の演劇の部活で得た思い出など…。

今は自分の選択してきた様々な道に後悔がなかったことに感謝しています。お世話になりました。

田沼 隆志氏 (高校第46回H6卒) 衆議院議員

皆様の絶大なご支援で、衆議院議員に当選させて頂きました。

初の東高出身国会議員の誇りと責任を胸に、必ずご期待に応える決意です。

特に最近問題の多い教育の再生に全力を尽くします。ご指導ご支援をお願い致します。

なお、東高音楽部で始めた合唱は、卒業生中心に結成した「合唱団からたち」団長として今も続けています。

関 政幸氏 (高校第50回H10卒) 千葉県議会議員

在校生の皆さんへ。

大人になって振り返ると、やって失敗したことの後悔よりも、何もしなかった後悔の方が何十倍、何百倍も大きいことを知ります。

貴重な高校時代です。在校生の皆さん、勉強、部活、趣味、恋愛…と、失敗を恐れずに何事にも果敢に挑んで下さい！後輩の皆さんのご活躍を楽しみにしています。

市政功労者表彰

小塚興作氏 (高校第11回S34卒 同窓会理事・書記) が市政功労者として表彰されました。誠におめでとうございます。

〈小塚さんのコメント〉

平成24年10月18日の千葉市民の日に市政功労者として表彰されました。

これまで地元中学校区青少年育成委員会の会長、副会長を長く務めたということなのでしょう。たまたま町内会長をお引き受けしたことも重なって、小学校・中学校の学校評議員など地域の様々な役職にあったことなどが加味されたのかも知れませんが、これも偏に多くの方々の温かいご支援、ご協力が得られたからこそできました。

また、11月1日号の市政だよりに名前が掲載され、それを目にされた多くの方からお祝いの言葉を頂戴して、面映ゆい気持ちもありましたが、大変嬉しく、有り難いことと感謝申し上げます。

これからも引き続いて、できることは積極的に協力させて頂いていただくつもりです。

各地で同期会・支部会・地区会 活発に開催

各地で同期会・部活動OB会、クラス会などの活動が盛んになってきました。今回も各地から編集部にご寄せられたご寄稿をご紹介します。

第7回東雲会ゴルフコンペ

平成24年7月16日(月)海の日 好天気の中、山武グリーンカントリークラブにて、元母校校長の長妻孝治先生はじめ多数の同窓生、旧職員の先生方とともに東雲会交歓ゴルフコンペをいたしました。

今回も江口憲治先生を囲む会の皆さんとの合同で挙

致しましたので6組24名という参加者を得、大盛況でした。

新ペリア方式での結果は、優勝奥田雅之氏(41/45 H12.0 N74.0以下別表の通り)でした。

毎年恒例の“次々と新しいメンバーが生まれますように”との思いを込めた「生みたての卵と沢山の野菜」の参加賞が配られ、ゴルフ場役員の同窓生の楢田英之氏(高



スタート前の勢揃い

校第33回S56卒)からも特別賞をいただき、終了後のパーティーでは、それぞれ母校での思い出や先生方との触れ合いなどが語られ、大変盛り上がり来年の再会を約して散会しました。

東雲会 ゴルフコンペ 順位表 (敬称略)

順位	氏名	GROSS	HDCP	NET	備考	順位	氏名	GROSS	HDCP	NET	備考
1	奥田 雅之	86	12.0	74.0		13	安川 民恵	97	19.2	77.8	
2	澤田 繁信	90	15.6	74.4		14	江口 憲治	101	22.8	78.2	
3	相原 薫	90	15.6	74.4		15	渡邊 和則	88	9.6	78.4	
4	長妻 孝治	96	21.6	74.4		16	森谷 修一	98	19.2	78.8	
5	大野 博敏	96	21.6	74.4		17	安岡 一昭	98	19.2	78.8	
6	中村由貴彦	89	14.4	74.4		18	鎌田 英之	92	12.0	80.0	
7	今井 一臣	85	9.6	75.4	BG	19	吉川 勝寿	103	22.8	80.2	
8	上市 善章	94	18.0	76.0		20	岩本 達雄	106	24.0	82.0	
9	井戸川 浩	100	24.0	76.0		21	岩崎 智代	112	30.0	82.0	
10	河西 郁宏	99	22.8	76.2		22	高山 善則	103	20.4	82.6	
11	峰島 信司	92	15.6	76.4		23	時田 紀夫	108	22.8	85.2	BB
12	木村 秀二	93	15.6	77.4		24	浅田 明文	113	27.6	85.4	

【優勝者 奥田 雅之さんのコメント】

優勝のコメントなど恐れ多くて出来ませんが、この東雲ゴルフ会に参加させて頂きもう6年になります。

違う部活や違う年代の先輩方とゴルフをご一緒させてもらい、新たなネットワークを広げることができ、この会を運営されている先輩方にとっても感謝しております。

今後とも多くの先輩方や後輩の皆さんにこのゴルフ会に参加して頂きたいと切に願っております。

平成25年も7月15日(月)海の日に開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(幹事 澤田 繁信 高校第23回S46卒)

お申し込みお問い合わせは

澤田 (☎043 261 4528 ギャレックスチバ株式会社) まで。(ただし、お申込みお問い合わせの受付時間は昼間のみですのでご協力ください)

書のグループ展 “槽” 2012開かる

平成24年10月12日(金)～17日(水)まで母校書道部OB有志の会展がIR西千葉駅そばのギャラリー古島で開催されました。

出品者は、林 一巳(S41卒)、湯浅昭弘(S42卒)、林 秀一(S43卒)、白井 孝(S43卒)、石井希佳(S44卒)の五名でした。

本展覧会は、作品をただ並べただけという展覧会とは異なり、制作者自らが作品の制作意図や裏話などを語るというユニークな取り組みでした。来られた方々も、制作意図や背景などを直接制作者から聞いて、その書の奥深さなどを感じていただき、造詣を深めていただいたようです。

書は眺めてみるととても落ち着きますね。尚、展示の書は販売もしておりますので、お気に入りの書を是非購

入されお部屋に飾ってほしいと希望されておりました。

今回は、平成25年10月に千葉市中央区のきぼーる2Fにある画廊ジュライで開催されます。

(取材 井戸川 浩)



“槽”メンバー 写真向かって左から 林(秀)、湯浅、林(一)、石井、白井の各氏

誇りある日本を、千葉から

衆議院議員 (稲毛区・美浜区・中央区)



田沼隆志

(平成6年卒)

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台4-14-8

TEL 043-253-9610

HP <http://tanuma.info>

FAX 043-253-7255

ブログ <http://ameblo.jp/tanuma>

twitter @tanumatakashi

メール tanuma@tanuma.info

人間生命の運動法則を研究する科学

千葉人間科学協会

理事長 小塚興作 (高校第11回卒)

千葉市若葉区桜木7-5-64

☎043-231-9215

高女2・3回生懇親会(昭和21年・22年3月卒)

平成24年6月17日(日) そごう千葉店“鮎やまと”にて
〈幹事からひとこと〉

毎年恒例になっている懇親会。今回は異常気象ともいえるような連日の雨が降り続く中での開催でした。出席者は残念ながら10名に満たずとはいえ、卒業時からの時を経た今、これだけ長生きしている人が多いのも嬉しい。皆、人生経験豊かなだけに話題も豊富で、教えられるこ

とも多く、明るく笑顔あふれる楽しいひとときでした。

次回懇親会は、平成25年6月16日(日)12時からです。会場は今回と同じ、そごう千葉店地下1階フードコート内“鮎やまと”で実施致します。

同期の皆さん、いつまでもお健やかに、一人でも多くの方が参加されることを願っています。

(高女第2回S21卒 小林美代子)

昭和31年卒(高校第8回)

故 剣持 徹ルームクラス会

平成24年11月20日(火)

千葉市センシティビル 海燕亭にて開催。

〈幹事からひとこと〉

12名が集まった。はじめに亡くなられた剣持先生への黙祷ののち、おいしい料理に舌鼓を打ちつつ久しぶりの邂逅に我を忘れて昔話に花が咲いた。

運動部、とりわけ野球部やラグビー部、陸上部などの

生徒が練習中にケガをしないようにと、毎朝の朝礼時に全校生徒が校庭の小石拾いをしたことなどがいつも話題になる。小さなことの積み重ねこそが大切だと教えていたのだろうか。

クラス会はクラス担任の先生の存在がとても重要で、それだけに先生には長生きをしてもらいたいものだが、残念ながら核を欠いたクラス会でも、一声かければ集まるクラスであったことに無上の喜びを感じている。

(同窓会幹事 大森啓護)

昭和34年卒(高校第11回)

3E 井下田ルームクラス会 米寿の会

平成24年10月10日(水) 千葉市中央区 兵九郎にて井下田ルームクラス会が開催された。

本年は恩師井下田先生の米寿のお祝いを兼ねており、先生のご希望でローズウッド製の特注の「杖」を記念品にしました。

元気で親や配偶者の介護で手が離せないとか、自身の体調不良などで出席が叶わない事情にある友人たちにも声をかけ、クラスの78%、29名の方々の賛同を得て出席者15名とともにお祝いの会と記念品の贈呈をしました。

〈幹事からひとこと〉

古稀を過ぎた自分たちが、お元気な米寿の先生に記念品を贈るという取り合わせにやはり何事も健康第一だと自覚させられたものです。

井下田先生には、これからもお元気で長生きしていただきたいと念願し、クラスのみならず健康に留意して毎年元気で会えるように改めて誓ったひと時でした。

(幹事 井戸川 浩)



平成24年度 通信教育部卒業生銚子地区交流会

平成24年7月22日～23日 旭市 かんぼの宿 旭 にて
〈幹事からひとこと〉

今は県立大宮高校に移った通信教育部。かつて学んだ銚子地区及び県内学習会のOB33名が出席されました。

年代も諸環境もそれぞれ異なった私たちに、親身に指導して下さった高橋邦夫先生を囲み、九十九里の浜辺の宿で昔と今をつなぎ、和やかに「人生希望あるかぎり青春」を謳歌しました。

(幹事 石田 定雄 通教第8回S39卒)



昭和63年卒（高校第31回） 3年2組 本城ルームクラス会

平成24年（2011）12月22日（土）。

母校通学の思い出が甦る西千葉駅前Needにて、17年振りのクラス会を開催しました。当日は、担任だった本城一隆先生を囲み15名の教え子が集まり、思い出話に花が咲きました。

〈幹事からひとこと〉

担任だった本城先生にも連絡がとれて、ご参加いただき何よりでした。これを機会に、少人数でも毎年集まろうという機運になりました。 （幹事 有泉 智彦）



平成24年度 野球部OB会 新年会

野球部OB会恒例の新年会が、去る1月26日（土）京成ホテル・ミラマーレで開催されました。

今回は残念ながら出席予定だった津嶋元監督（現・生浜高校勤務）が都合により欠席されましたが、保護者会から染谷会長、並木副会長のご列席を賜り、藤代会長以下23名の参加での開催となりました。（今回は久しぶりに私よりも若い方が6名も出席してくれました。）

会は藤代会長の挨拶、私から現役生徒の近況報告、市原副会長の乾杯と続き、祝宴の中で出席者各々から一言ずつ挨拶をいただきました。

1期生の渡邊先輩（昭和28年卒）からは創部当時のお話、5期生の共田先輩（昭和32年卒）からは選抜メンバーに選ばれて韓国遠征に行った折に張本勲氏（現野球解説者）と懇意になったこと、15期生の太田先輩（昭和42年卒）・16期生の西山先輩・野沢先輩（ともに昭和43年卒）からは秋、準優勝して関東大会に出場したことなどが紹介されました。

また39期・山本君（平成3年卒）からは昨年のお新年会に出席したことでOB野球大会にも参加したことや、卒業後初めて同期のメンバーと会ったことなどが紹介され、和やかな雰囲気での会が進行しました。

皆さんのお話を伺いながら、本当に野球が好きで、現役生徒の活躍を心から望んでいることがうかがえ、チームを預かる責任の重さを痛感しています。

微力ながら精一杯の指導をしていきたいと思いますが、OB会の皆様からのご支援が不可欠です。総会や新年会の出席も含め、OB連合会主催のゴルフ大会・野球大会への参加、OB会費の納入など一人でも多くの方のご協力をお願いいたします。

なお、OB会で野球大会用のユニホーム（上着と帽子）を新調しました。参加して下さる方には試合当日お渡しますので、出席して下さる方はご一報下さい。

（文責・野球部監督 高橋敏行 高校第28回S51卒）



冒頭で挨拶する藤代会長

祝 剣道部創部60周年記念祝賀会の開催

平成25年1月27日（日）三紫会（剣道部OB会）は、渡邊茂通現校長、井戸川浩同窓会長、石川宏先生、亘登志雄先生、本屋敷博先生の歴代顧問、県立千葉高校、千葉商業高校、千葉工業高校、市立千葉高校の交流OB会の先輩方と会員61名の参加のもと創部60周年記念式典を開催することができました。

三紫会会長市川豊先輩からは、戦後禁止されていた剣道が解禁されたのに伴い、熱のこもった稽古（荒稽古）が連日行われたこと、道場の床をよく踏みぬき用務員さんまで修繕におおわらわだったことなどがエピソードと

して紹介されました。「東高校剣道部に『参りました。』はない！」と学生時代先輩によく言われたものでしたが、ルーツがこんなところにあったのかと改めて歴史を感じた次第でした。2年間にわたる女子部創部の秘話から、市川会長の青春時代の甘酸っぱい心の内を想像したのは私だけではなかったことと思返しています。

続いて元顧問本屋敷先生を代表に、記念品を贈呈させていただいた。ご挨拶では、白髪になられても変わらぬ軽妙なお話、東高校と剣道部への暖かいお心遣い、また教士八段、千葉県剣道連盟副会長として剣道を愛し、ご活躍されている元気なお姿に改めて良き師に出会えた喜

びを感じた次第でした。

三紫会は会員600名を越すものの、若年層の参加が少ないとの悩みを抱えています。剣道部OB会ということで、卒業後剣道を続けていないと「敷居が高い」と活動になかなか参加していただけない悩みを抱えているところです。しかし、当日は老若男女、剣道の継続の如何を問わず集まった会員一同は、よき酒を酌み交わしながら「次は、剣道部の古希に集まろう！」と誓い、母校東高校並びに剣道部の支援を約し、閉会することができました。
(山口喜弘 高校第28回S51卒)



高橋敏行書作展

本校で書道を担当されている高橋敏行先生（高校第28回S51卒）は、45歳の第一回展から5年ごとに書作を発表しています。

今回は、50歳の第二回展に続く第三回目の書作個展になります。

平成24年12月3日～9日まで船橋市民ギャラリーで開かれた書作展は、漢字の書、仮名、歌謡曲、良寛の歌、芭蕉の句などに題材をとった53点の華麗で自由な作風の書作が披露され、延べ350名の来観者がありました。



「千葉東高校の書道部員（1、2年生）と書道部顧問・池田富美子先生と」

第35回 暖流会展 開催

去る8月23～28日まで母校美術部卒業生有志29名による展覧会を市内の画廊ジュライで開催し、300人を超える観覧者を得ました。

この展覧会は、母校が千葉三高と言われていた時代から続く60名を越える会員の相互研鑽の場です。当時から長年にわたり美術部顧問であった草葉 章先生は残念ながら故人となられました。ご遺族のご厚意で御遺作を賛助出品いただき、花を添えていただきました。

会員は、日展、院展に出品する方々から趣味カルチャーの方まで幅広い層で構成されていますが、それぞれに活

発な活動を続けております。

本年も下記の通りの日程で第36回展を開催するべく会員全員で準備に追われています。

是非ご来場いただき同窓生の活動ぶりをご参観ください。

第36回暖流会展

期間：平成25年8月29日～9月3日

場所：画廊 ジュライ 千葉市中央区中央4-5-1

きぼーる2F 電話 043-224-4984

(同窓会幹事 戸塚主税 高校第13回S36卒)



同窓会からのお知らせ

1. 卒業生の議員さんはほかにいませんか

今回5人の議員さんにコメントを頂きましたが、このほかにも同窓会が把握していない選良の方々、特に他市・県や外国などで議員をされている方をご存知でしたら同窓会事務局までお知らせ下さい。

2. 住所・姓名などの異動変更をお知らせください

卒業後、住所や姓名などが変更された場合には母校同窓会事務局までお知らせください。

毎年、会報の「宛先不明」返送数が増加しております。せっかくの情報がお届けできませんのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

尚、個人情報に関しては、会報発送、同窓会関係の照会・連絡以外には使用いたしません。

3. クラス会、同期会、部活OB会等の記録をお寄せ下さい

同窓会の最小単位はクラスです。まずは、担任の先生を中心にクラス会をまとめてください。

さらに水平展開して同期会へ発展させて下さい。また、部活OB会は異学年交流の垂直展開です。

これも同窓会にとって大事な活動です。

クラス会、同期会、部活OB会などの実施報告（写真歓迎）がありましたら、「会名」「時と場所」「参加人員」「幹事感想」「集合写真」など母校同窓会事務局まで毎年12月末までにお知らせ下さい。（原稿・写真は原則としてお返しできませんのでご承知おきください）

また、「集まりの予告」でも結構です。“シャロンの花”は毎年3月に発行されますので、その後に計画されている集まりの予告、呼びかけをすると効果的です。（原稿は母校同窓会事務局まで）

本会把握分のみ

消息

逝去 同窓会副会長 高橋 一郎氏 逝去日 平成24年5月9日 享年74歳

追悼 高橋 一郎氏

永年、母校同窓会のためにご尽力された高橋一郎氏が昨年5月9日急逝された。私たち同窓会役員が高橋一郎氏に最後にお目にかかったのは4月の役員会議でした。以前から体調にいささか不安を抱えておられたのはお聞きしていましたが、毎回元気で出席されて5月開催の同窓会総会の準備に忙殺されておられたことが印象に残っています。それから2週間後の突然の訃報でした。

高橋氏は昭和32年に卒業と同時に同窓会幹事となり、その後永江、小西、井戸川の各会長のもとで、40年以上の長きにわたって副会長を務め、まさに同窓会に半生を

捧げた人でありました。

特に、毎年開催される総会では、会場の手配、折衝、役員配置などに尽力され、同窓会役員として生涯現役を通じた人でもありました。

今年も総会の時期を迎え、長年にわたり総会全体を把握し、活動してきた高橋氏がそこにいないということは同総会運営の大きな柱を失ってしまったというのが切実な実感ですが、残った者で頑張ることを誓い、ご冥福をお祈り申し上げます。

（同窓会副会長 小林・石橋・山中）

編集後記

第17号をお届けいたします。

私たちは、同窓会は学校を縁とする「絆集団」なのだといつも言ってきましたし、そのための仕掛けを色々作ってもきました。

クラス仲間や同期生との「同学年交流」、部活OB会などの「異学年交流」、そして先生を囲む「師弟間交流」のいわゆる「三交活動」を推進し、それら三交を一つの場としたのが「同窓会総会後の懇親会」です。

これらの状況を報告するのがこの“シャロンの花”の役割でもあります。

こうした活動が活発になればなるほどみんな元気になりますね。

母校も70周年を終え、次の80周年への一步を踏み出しました。

どうか、これからも「シャロンの花」をご愛読下さい。

（編集委員一同）